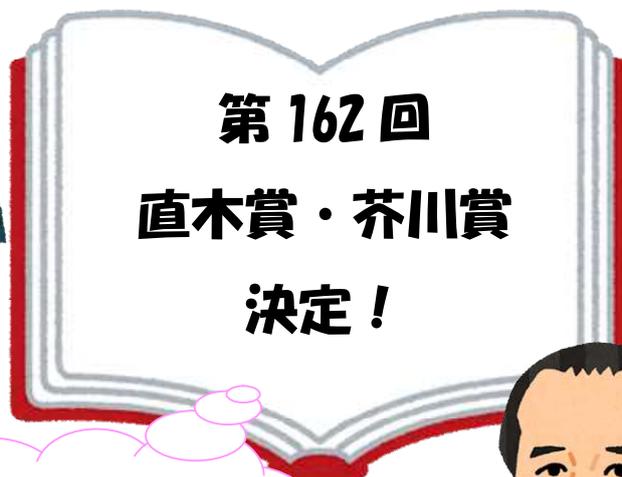


MIMOPIA

中村学園女子中学校・高等学校図書館情報 No.219

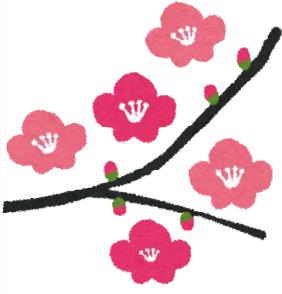


どの本に決まった？
そもそもどんな賞？
本誌のどこかにあります！

発行 中村学園女子中学・高等学校 図書部

【目次】

読書のすすめ 徳永次郎先生 …p.2 「新春」チャレンジしたいこと…p.4
読書会報告 ……………p.6



読書のすすめ

先生方に、オススメの本や思い出の本、読書に関する
いろいろなエピソードなどを語っていただきます！



国語科 徳永 次郎

私の父は七年前に他界した。無口な人であったが、よく本を読む人だった。現在八十三才になる母もまた本好きで、今でも小説を書いては同人誌に投稿したり、コンクールに送ったりしている。父は厳しい人だったが、四人の子どものための「少年少女物語文庫」やポプラ社の怪盗ルパン、シヤロックホームズといった子ども向けの推理小説を買い与えてくれた。特に、子どもたちを感性的豊かにしようとか、国語力、思考力をつけようとかといった大それた目的があったとは思えない。何というか、おもちゃや何かを買い与えるようなつもりで、子どもを喜ばせようという気持ちだったのだろうと思う。思惑通り姉弟みんながそれらの本をよく読んでいた。週末の夜や休日の朝などには、姉と兄が読み聞かせてくれた。四つ並べて敷いた布団に

くるまって、残りの三人が物語に耳を傾けた。あれは本当に楽しい時間だった。その時感じていた幸福感を、大人になった今、どのように例えてよいかわからない。子どもの時間には、子どもだけが感じるこのできる喜びが確かに存在する。

こんな家庭に育ったので、私たち姉弟も残らず本好きになった。しかし、両親ともに、子どもたちのそういう性向を良くは思っていないかった。読書なんかは暇つぶしでやるものくらいにしか考えていなかった。母からは「本読む暇があるんやったら勉強しなさい！」とよく怒られていたし、父も、私と兄がよくやっていた文学談義を「何を偉そうに語ってやがる」とよく皮肉を言った。父は、文学鑑賞なんてただの道楽に過ぎないと考えていた。その時は反発していたが、今となっては父の気持ちが何となくわかる。父は満州で生まれ、敗戦と同時に、

祖父の故郷である熊本に引き上げた。暮らしては楽ではなかったが「高校くらいは行った方がいいだろう」ということで、何とか進学させてもらったという。兄弟が多かったので、親戚の援助を受け、叔母宅に居候しながら高校に通った。卒業後は公務員試験を受けた。郵便局に入り、遅刻も欠勤もせず、愚痴ひとつ言わず、四十年間務め上げた。私たちの親の世代は、苦労をした人ばかりだ。「夢を叶える」とか、「自己実現」などという言葉に、何のリアリティも感じられない人がたくさんいた。みんなささやかな幸福のために、最大限の努力をした。私の両親も同じだ。だからどうしても実用を重んじる性格になるし、勉強とは生活力をつけるためのものだと思っていた。

私は高校時代殆ど勉強しなかった。無理に受けた大学も全滅した。だから、父は卒業後、就職するように強く勧めた。何とか安く

予備校に行く方法を見つけたことと、「太郎が行って、次郎を大学に行かせないのも可哀相」という母の助け船のおかげで、何とか浪人させてもらったが、父は私の大学進学に納得していなかった。そのため、私が浪人して文学部に進むつもりであると分かったときは烈火のごとく怒った。「そんな女子どものすざびごと（差別的な表現ですまない。ほんとにそう言われたのだ）に、高い金をはらうつもりはない！」という言い放った。「法科に行って弁護士になる、商科に行って税理士になる、そういう目的があるならわかる。文学部とはどういうことだ。ふざけるな」と大変な怒りようだった。若いとき苦労した父の気持ちを考えれば、その意見も一理あるのだが、当時の私にはただただ理不尽な意見にしか聞こえなかった。三流高校に通っていた私の回りには読書家なんて一人もいなかった。自分が読書を通して感じていることをただ胸の中に閉じ込めておくことが悲しかった。どうしても文学研究というものがやってみてかかった。その先の事なんて何も考えていなかったし、ただ本に囲まれた生活をしたかっただけにすぎない。だから父にそう言われたとき、まさに口からでまかせて「文学部に行って司書になる」と言った。父は不意を突かれて一瞬きょ

とんとしたが、「人にものを頼むときにはそれなりの態度があるだろう」といった。私はあぐらをかいていた足を正座に直し「文学部に行かせてください」と言って自室に逃げ込んだ。

あっちこっちの大学に蹴られ、なんとか福大の人文文学部にひっかかった。進学後、私は現代詩の研究を始めた。卒論は鮎川信夫を選んだ。卒論のために全集や沢山の資料を自宅に持ち込んでいたが、父はそのときもまだ、文学研究に熱を上げる私をよく思っていなかった。ある時「おまえが研究している、鮎川なにがし、とかいう男の詩を読ませてもらったが、どこがいいのかさっぱりわからん。ただの言葉あそびじゃないのか、そこらへんの流行歌の歌詞の方がよっぽどまともだ」と言った。その時に何と返答したのか覚えていない。ただ無性に腹がたったことだけを覚えている。

卒業後、国語教師になってから、父の態度は随分と変わった。きつと安心してくれたのだと思う。父は母に一度「僕、三人の息子の中では次郎がちょっとうらやましゅちゃんね。」と言ったという。母が理由を尋ねると「僕、先生になってみたかったとよ」と言ったそうだ。今そのことを思い出して、ただタイプするだけで胸に迫るものがある。

父は、年をとることに性格が丸くなった。

人からは、穏やかで優しい方だと言われるようになった。おそろしくそれが本来の父の性格に近かったのだと今は思う。仕事をリタイアしてからは、幼少時には話せていたという中国語を勉強し直したり、町内会の世話役をしたりしていた。そして何と俳句のサークルに入った。読書家のくせに、文学鑑賞や創作を毛嫌いしてきた、どこかへそ曲がりの父だったので、私は本当に驚いた。俳句作りを始めて何年か経ったある日、父から電話があった。私に頼みたいことがあるのだという。何でも老人会の催しに、短冊にしたためた自作の俳句を出すのだという。人の眼に触れるので、出来映えが心配だ。国語教師である私の批評が聞きたい、そういうのだ。「どんな句？」と私が聞くと、「電話じゃ恥ずかしくてかなわん。あとでFAXを送る」と父は言った。まもなくFAXが届いた。そこには

小さな字でこう書いてあった。

猪の菌形のついた諸（いも）もらら
とてもいい句だと思った。それは身びいきというものであろうか。





みなさんはどんなお正月を迎えましたか？
 今回はお正月にはかかせない「おせち料理」についてと、
 「一年の計は元旦にあり」ということで、
 今年チャレンジしたいことについてお送りします。

おせち料理

二年二組 三嶋 小諭莉

あけましておめでとーござい
 ます。みなさんはお正月におせ
 ちを食へましたか？今回私は
 「おせち料理」について紹介し
 ます。

おせち料理の始まりは、節と
 いわれる季節の変わり目ごと、
 豊作を感謝して、神様にお供え
 物をした「節供」に由来してい
 ます。おせち料理のお重箱は四
 段で、上から「一の重」「二の重」
 「三の重」「与の重」です。四は
 死を連想させて縁起が良くない
 ため「与」の字が使われていま
 す。「一の重」に詰める食材は、
 かまぼこ、栗きんとん、伊達巻
 き、田作り、黒豆、数の子、き
 んぴらごぼうといった祝い肴、
 口取りといわれる品です。「二の
 重」に詰める食材は、鯛や鰯な
 どの焼き魚、海老をはじめとす

る海の幸といった焼き物と言わ
 れる品です。「三の重」に詰める
 食材は、紅白なますなど酢の物
 と言われる品です。「与の重」に

詰める食材は、里芋やクワイ、
 蓮根や人参など山の幸を使った
 煮物、筑前煮などの品です。日
 本では古くから「奇数が縁起が
 良い」と言われているので、お
 せち料理も三、五、七などの奇
 数の品数で盛りつけるのが良い
 とされています。おせち料理の
 一品ずつに意味があったり、た
 くさんの願いが詰まっています。
 みなさんも来年、おせち料理
 にこめられた意味をかみしめな
 がら、おせち料理を食べてみて
 ください。



「断捨離」 だんしゃり

二年二組 米澤 真衣

私は今年「断捨離」チャレン
 シしてみたいです。

「断捨離」の醍醐味は「モノ
 の片付け術」ではありません。
 断捨離の基本は、モノを「断」
 ち、ガラクタを「捨」てれば、
 執着も「離」れていく、という
 ことですが、その本質は「出す」
 ことです。

断捨離のスキルを使って不要
 なものを捨てれば、大切なもの
 が手に入り、お金・健康・時間
 などがいい方向に巡りだすそう
 です。

断捨離をする上で大事なことは、
 自分に本当に必要なものが
 何なのかを分かることです。

この本を読んで私は、断捨離
 をしないのもったいない！と
 思いました。自分の部屋には使
 っていないものがたくさんある

ので、まずはそれが本当に必要かを考えてみようと思います。
みなさんも「断捨離」にチャレンジしてみませんか？

【参考図書】

『人生を変える断捨離』

やましたひでこ 著

☆図書室にある

やましたひでこの本

『心を洗う断捨離と空海』
『断捨離のすすめ モノを捨てればうまくいく』



新着・近日入荷予定の本

『熱源』川越宗一☆直木賞

『嘘と正典』小川哲

『スワン』呉勝浩

『背中の蜘蛛』誉田哲也

『落日』湊かなえ

直木賞
候補作品

『まち』小野寺史宣

『X-01 エックスゼロワン』あさのあつこ

『石牟礼道子全歌集 海と空の間に』

『聖者のかけら』川添愛

『わが殿』上・下 畠中恵

『ひと口で人間をダメにするウマさ！リュウジ式悪魔のレシピ』

『食のハラール入門 今日からできるムスリム対応』

『クトゥルフ様がめっちゃ雑に教えてくれる クトゥルフ神話用語事典』



芥川賞『背高泡立草』古川真人も本が発売され次第入荷予定！

芥川賞・直木賞とは？

芥川賞は、雑誌（同人雑誌を含む）に発表された、新進作家による純文学・短編作品のなかから選ばれます。直木賞は、新進・中堅作家によるエンターテインメント作品の単行本（長編小説もしくは短編集）が対象です。

（日本文学振興会 HP <http://www.bunshun.co.jp/shinkoukai/>より）

三陽高校と 合同読書会を 開催しました

十二月二十日(金)、三陽高校のみなさんと読書会をしました。はじめはお互い緊張していましたが、読書会が進む中で、活発なやりとりが生まれました。

読書会って何?

読書会とは、同じ本を読んで感想や意見を出し合ったり、テーマを決めて、本を紹介し合ったりして、読書の世界を広める会です。いろんなやり方がありますが、今回行われたものを紹介します。

参加者はテーマの本を読み、「読書シート」という質問用紙に自分の考えを記入しておきます。読書会当日に意見を交わしました。

テーマの本

『線は、僕を描く』

砥上裕将 著

【あらすじ】

両親を交通事故で失った大学生の青山霜介は、アルバイト先の展覧会場で水墨画の巨匠・篠田湖山と出会う。なぜか湖山に気に入られ、その場で内弟子にされてしまう霜介。それに反発した湖山の孫・千瑛は、翌年の「湖山賞」をかけて霜介と勝負すると宣言する。

図書館にも近日入荷予定



まずはAグループ4名・Bグループ5名で、それぞれグループで意見を出し合います。共感する部分、自分とはちがった意見、思いもよらなかった発見などがありました。

その後、グループで出た意見を全体に発表しました。他のグループの意見も吟味して、気になった点はどんどん意見を交わしていました。特に質問③についてはかなりの盛り上がりでした。

読書シートの質問

- ① この話の中で1番心を惹かれた登場人物は誰ですか?その理由は?
- ② 主人公の人生は少しずつ変わっていきませんが、誰の影響がもっとも大きかったと思いますか?
- ③ この本のタイトルは『線は、僕を描く』ですが、なぜ『僕は、線を描く』ではないのだと思いますか?



(参加者の感想文よりの抜粋)

- ・自分の考えだけでなく、他の人の考えも深く知ることができた。
- ・みんなそれぞれの意見があつて、ちがう意見を聞くだけでも楽しかった。
- ・自分の意見と180度違う意見を聞くことができて、とても面白かった。新たな視点から物事をとらえることができて新鮮だった。
- ・自分の意見をはっきり持つことや発表することは苦手だったが、色々な人の意見を聞くことで、自分なりの答えを見つけ出せることができた。
- ・自分と全く違う意見がたくさんあった。最初と最後で自分の考えも変わった。それもおもしろかった。



募集中!

新しい仲間を募集しています!

今回の定例の読書会や他にも、読書交流会への参加、ミモピア(本誌)の作成や読書週間の企画などの活動をしています。

中学生や他の部活に入っている人も大歓迎です。

活動日時: 火曜日の昼休み(2019年度)

気になる方は図書館カウンターへお気軽にどうぞ!

お知らせ

中学3年生・高校3年生のみなさんは2月中に、
かりている本を確実に返却してください。
その他の学年のみなさんも、新しい学年になる前に、
返却期限までに必ず返却してください。

☆春休み期間のかしだしについて☆

2月中旬頃から予定しています。

図書室内外の掲示板上等でお知らせします。





☆ 編集後記 ☆

ミモピア第219号をお届けしました。

冬休み前のクリスマスフェアでは、たくさんの方が本をかりてポイントを集めていました。本に興味を持つ、いつもより少し多めにかりてみる、様々な読書活動のきっかけになっていたら嬉しいです。

そして新しい元号になって初めて迎えたお正月。今年も新しいことに挑戦する気持ちをもって、楽しい図書館づくりに努めたいと思います。

最後に、お忙しい中原稿にご協力いただいた徳永先生、ありがとうございました。